

廃棄物資源循環学会「災害廃棄物対策・復興タスクチーム」

現場派遣メモ（4月14～15日）

文責：鈴木、岡山

1. 活動場所 仙台市
2. 活動内容 マニュアル情報収集・追加、廃木材試料採取の打合せ、廃木材試料採取
3. 現地の天候：14日（木）、15日（金）、両日共に晴天
4. ポケット線量計着用記録：無し
5. 主な活動スケジュール、感想・課題認識及び記録写真

4月14日（木）

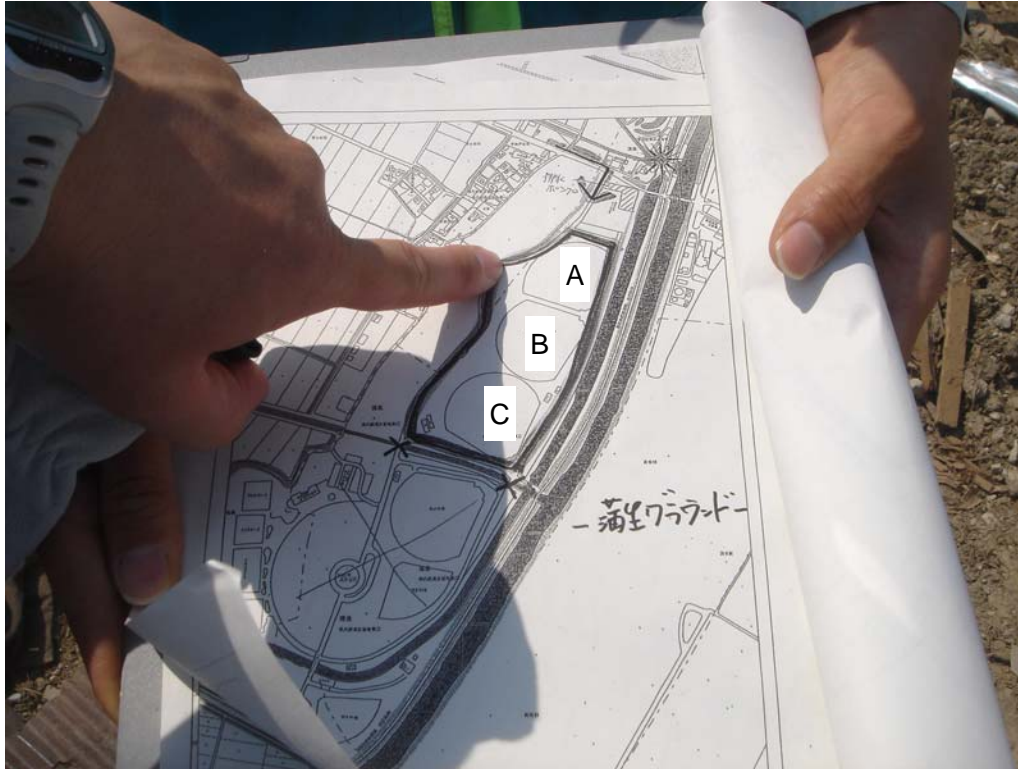
- 8：30～ 小口さん、小林さん、戸舘さん、つくば出発
- 8：50～ 市環境局入り。デスクワーク（書類整理、各種連絡調整など）（岡山、鈴木）
- 9：30～ 当日行動打合せ（吉岡、岡山、鈴木）  
デスクワーク（マニュアル情報収集、資料作成、連絡調整、事務対応など）（岡山、鈴木）
- 14：30～ 小口さん、小林さん、戸舘さん、仙台到着
- 15：00～ マニュアル情報収集（岡山）  
仙台市岩沼視察（小口）～19：00  
ライブラリホテル二番丁ロビーにて、廃木材試料採取打合せ（鈴木、小林、戸舘）  
・市環境局 大気対策課 横田氏と行動  
・9時～12時の予定で廃木材試料の採取を実施  
・時間内に廃木材（柱、倒木、板など）を200kg程度採取予定
- 17：00～ 宮城県情報収集および相談（吉岡、岡山）
- 18：00～ 市環境局入り（鈴木）
- 19：00～ 市環境局入り（吉岡、岡山）

4月15日（金）

- 8：30～ ホテル前集合（岡山、鈴木、小林、戸舘）  
石巻市視察（小口）～17：45
- 8：45～ 市環境局大気対策課 横田氏と合流
- 9：00～ 廃木材試料採取に出発

9 : 5 0 ~

蒲生地区東北油化工業災害廃棄物仮置き場（一次集積場）に到着  
横田氏、岡山、鈴木、小林、戸舘で、廃木材試料採取開始



仮置き場の図面。A：燃えるごみ、B：家電類、C：ガレキの分別で収集しており、廃木材はAから採取



燃える（燃やす）ごみ（A）の仮置き場には、主に建材の柱・板や倒木などの廃木材が、津波堆積物にまみれた状態で集積されている状態。試料選定・採取 2 名、チェーンソーによる廃木材裁断 1 名、裁断試料の積み込み 1 名、試料採取状況の記録・現場観察 1 名で作業を実施した。





廃木材を採取した仮置き場全景



4月12日（火）夕方撮影



4月15日（火）午前撮影

4月12日（火）の夕方に同仮置き場を視察した際にはなかった、新しい山が4月15日（金）の午前中にみられた。奥行きも広がっている印象。



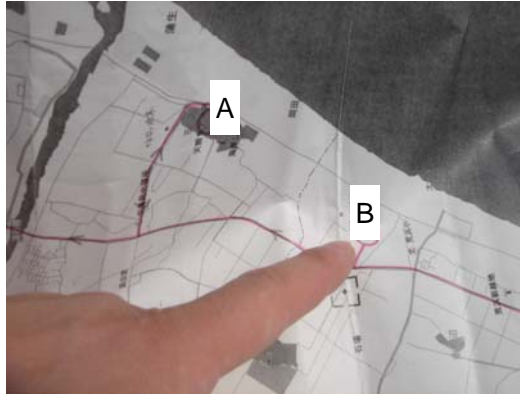


B：廃家電類の仮置き場



C：ガレキ（コンクリ、ブロック、瓦など）の仮置き場

11:15 消防ヘリポート災害廃棄物仮置き場（一次集積場）



災害廃棄物仮置き場の位置関係 A：東北油化工業災害廃棄物仮置き場、B：消防ヘリポート災害廃棄物仮置き場。撮影地点は海から800m程度離れた場所であり、奥に見えるのが松林であり、その向こう側が海。松林がなぎ倒されており、至るところに松の流木が存在している。消防ヘリポート災害廃棄物仮置き場では、主に流木を仮置きする予定。

11:35 海岸公園災害廃棄物仮置き場予定地（一次集積場）（国有林）



海岸公園災害廃棄物仮置き場予定地の全景。仮置き場のなかで最も広い。ここも流木がメインとのこと。





海岸公園災害廃棄物仮置き場予定地のすぐ隣にある冒険公園。被災時にここに避難して津波被害を免れた人が多数居られたそうです。冒険公園は今後も維持・活用していく予定。仙台市仮置き場の総面積は100ha。



津波被災後に溜まった海水。4月12日（火）の視察時点では溜まり水が確認できた場所も、12日からの晴天が続いていることもあり乾燥している事例がみられた。乾燥した堆積物の粉じん対策、水田・畑の堆積物対策など、今後の大きな課題と考えられた。

- 12:20 仙台市環境局到着（岡山、鈴木、小林、戸舘）
- 14:00 仙台市環境局にてデスクワーク（マニュアル情報収集、資料作成、連絡調整、事務対応など）  
（岡山、鈴木）～19:30  
仙台市視察（小林、戸舘）
- 17:45 つくばへ出発（小口、小林、戸舘）
- 18:00 吉岡先生、仙台市環境局戻り～19:30

#### <所感>岡山

4月22日より宮城野区および若林区における津波倒壊家屋の一斉撤去が始まる。現在、市内の各区に設置されている震災ごみ仮置き場から搬入されるごみだけで、現在の様子。もともと農業地域で住宅密集地ではなかったとはいえ、一斉撤去が始まるにあたって、この100ha にすべて仮置きできるかどうか不安は禁じ得ない。

これまでも何度も聞かされていたことだが、仙台東部道路で津波が止まったため、この道路の東側（海側）と西側（山側）でまったく被害が2分されることを実感する。そして、（例えば石巻市があらゆる災害廃棄物のパターンがみられるのと対照的に）仙台市では津波倒壊ごみと、震災ごみに2分されることも確認した。それは相対的に津波浸水ごみが、他自治体に比べて少ないことを示唆する。それでもなお、津波浸水ごみ排出に係るボランティア要請はボランティアセンターに多く寄せられているという。